

慢性疾患患者の薬局における能動的行動モデルの構築

○北出 恵里花¹, 岸本 桂子¹, 瀧澤 久美子¹, 福島 紀子¹(¹慶應大薬)

【目的】本講座の先行研究において、『患者の薬局業務の認知』と、『患者の薬局に対する能動的行動』の関連性が示唆された。また、薬物治療の効果的な実践には、『患者の薬物治療に対する姿勢』を高めることが重要であり、『薬物治療に対する姿勢』が『能動的行動』につながる可能性が考えられる。しかし、『業務の認知』と『薬物治療に対する姿勢』、『能動的行動』の3つの概念がどのように関連し、影響し合っているのかは明らかになっていない。そこで本研究では、薬局と患者の関係性向上を検討するために、構造方程式モデリングにて3つの概念の関連性についてモデルの構築を行うこととした。

【方法】2011年9月6日～9月22日に東京都内・神奈川県内6薬局にて各2日ずつ、継続処方のある患者を対象に自記式質問紙を直接配布し、郵送で回収した。質問紙は、『薬物治療に対する姿勢』、『業務の認知』、『能動的行動』についてそれぞれ5段階尺度で項目を設定した。統計解析として、因子分析と構造方程式モデリングを行った。

【結果・考察】得られたモデルは適合度指標(GFI, AGFI, RMSEA, AIC)より、妥当なモデルであると考えた。『薬物治療に対する姿勢』と『業務の認知』ともに『能動的行動』に正の影響を与えていることが確認された。薬剤師が「飲み忘れの対処法」、「飲み合わせ」、「副作用」の情報提供に重点を置き、薬物治療へ取り組む姿勢を高めると共に、薬局業務について周知していくことにより、『患者の薬局に対する能動的行動』が効率的に高まると考えられる。